

「世界」を拡張するために

図書館長

竹内 真彦

人は何のために本を読むのでしょうか？

唯一の正解はないはずです。すべての答えが「正しい」とも言えるでしょう。あるいは、理由など要らないのかも知れません。

ただ、例えば図書館に行って、膨大な量の本と向き合ったとき、そこに蓄えられた書き手の「熱」のようなものを感じることがあります。すべての本には書き手の「読んで欲しい」という「熱」が宿っているはずです。書架の本を手にする、というのは、その「熱」に自分が感応した結果なのかも知れません。そして、手に取った本の中には、必ず新しい「世界」、自分にとって未知の「世界」が広がっています。

「世界」のすべてを知ることはできません。しかし、より多くの「世界」を知ろうとすること、これは人が他者とかかわらないと生きていけない以上、人としての責務だと言えるのではないのでしょうか？ 他者の「世界」を知ること、あるいは知ろうとすることは他者を許容することです。そして、他者を許容することしか、自分が許容される道はない……そのように思われるからです。

「私のお薦め本コンテスト」は、2022年度で11回目を迎えました。応募者は23名、応募総数は計26部となります。今年も、優秀作品が図書館HPに掲載されています。これは、龍谷大学生が自らの「世界」を拡張した「記憶」です。是非ご一読を。その後は、ご自分の「世界」を拡張するために、図書館に赴いていただければ幸いです。

そして、来年度は是非この「私のお薦め本コンテスト」にご参加ください。たくさんの方のご参加をお待ちしています。